

近・現代美術に関する調査研究と資料集成(シ03)

目的 近・現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向づけに大きく関わった欧米の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者、及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。

- 成果**
1. 当研究所が所蔵する黒田清輝宛書簡について、黒田の養母貞子からの書簡の翻刻を『美術研究』422号に、洋画家山本芳翠からの書簡の翻刻を同誌423号に掲載した。
 2. 2010(平成22)年刊行の『黒田清輝フランス語資料集』に収録された諸資料のウェブ公開に向け、校正等の準備を始めた。
 3. 2015(平成27)年に遺族より寄贈された彫刻家畑正吉のフランス留学期写真資料を、ウェブ上で公開した。
 4. カリフォルニア大学ロサンゼルス校東アジア図書館に開設した美術評論家のヨシダ・ヨシエ文庫の調査を行い(2018(平成30)年2月19、20日)、同文庫開設に携わった各部署担当者とはアーカイブ連携等についての研究協議会を開催した(2018(平成30)年2月20日)。



ヨシダ・ヨシエ文庫に関する研究協議会の様子

5. 公開研究会「美術雑誌の情報共有に向けて」を開催(2018(平成30)年3月16日)、明治～昭和戦前期の美術雑誌を対象に、美術史研究資料としての意義を検証し、その情報の整理、公開、共有のあり方について協議を行った。
6. 久米美術館との共同研究を遂行、今年度は同館が所蔵する久米桂一郎宛黒田清輝書簡の翻刻作業を行った。
7. 齋藤達也氏(客員研究員、パリ・ソルボンヌ大学在籍)の発表による部内研究会を開催、フランスにおける近代美術関連資料の活用例をめぐって意見交換を行った。
8. 岸田劉生に関する部内研究会を開催(2017(平成29)年12月26日)、そのヨーロッパ古典絵画受容の面から大正初年における写実表現の形成過程の内実を考察した。

論文・田中淳「岸田劉生研究―「駒沢村新町」療養期を中心に」『美術研究』422 17.8

・山梨絵美子「黒田清輝 婦人像(厨房)」『國華』1467 18.1

発表・齋藤達也「フランスにおける近代美術資料 美術館・図書館・アーカイブ・インターネットリソースの紹介と活用例」文化財情報資料部研究会 17.9.5

・田中淳「岸田劉生における1913年から16年の「クラシツク」受容について」文化財情報資料部研究会 17.12.26

・塩谷純「東京文化財研究所の美術雑誌 その収集と公開の歩み」研究会「美術雑誌の情報共有に向けて」18.3.16

研究組織 ○塩谷純、橘川英規、城野誠治、田所泰(以上、文化財情報資料部)、山梨絵美子(副所長)、三上豊、丸川雄三、田中淳、齋藤達也(以上、客員研究員)